

気づきの質を高める生活科の学習

～伝え合うことを通して、自分や友達の学びを見つめる～

田中 千映

低学年の子どもたちは、具体的な活動や体験をし、対象とやりとりする中で、様々なことを感じ、考え、気づいていく。一人一人の気づきを伝え合うことで、新たな気づきや疑問が生み出される学習展開を考えた。それは、子どもたちのさらに学ぼうとする意欲につながる。伝え合うことを通して、自分や友達の学びを見つめ、気づきの質を高める生活科の学習を探った。また、伝え合うことの工夫として、絵や工作、動作化等の表現活動を効果的に取り入れた。

キーワード： 気づき、疑問、伝え合うこと、表現活動、

1. 研究目的

子どもたちは、具体的な活動や体験をし、対象とやりとりをする中で、様々なことを感じ、考え、気づいていく。そのため、子どもたち一人一人が没頭し、熱中して取り組む豊かな活動や体験を行うことが大切である。しかし、子どもたちが、豊かな活動や体験での自らの気づきを実感できるには、それぞれの学びを見つめることが大事と考える。

学校提案「問い続け、学び続ける子どもたち」を受けて、生活科では、「表現活動により、気づきの質を高める生活科の学習」を研究テーマにしている。それは、感じたこと、考えたこと、気づいたことを互いに伝え合うことで、友達の気づきに触れ、新たな気づきや疑問がより多く生み出されるのではないかと考える。また、新たな気づきや疑問は、子どもたちの「もっと学びたい」という意欲につながる。

そこで、本年度は、伝え合うことを通して、自分や友達の学びを見つめ、気づきの質を高める生活科の学習を探る。活動や体験をし、感じたことや気づいたことを自分なりの方法で表現することで、自らの気づきを自覚することができ、一人一人が自分の学びを見つめることができると考える。

2. 研究方法

「大すきふぞく小学校～しょうかいしよう おきにいのぼしよ～」、「大すきふぞく小学校～うろちよろたんけんたい どんなしごとをしてきているのかな～」の単元を考察する。

2. 1. 伝え合うことで

「大すきふぞく小学校～しょうかいしよう おきにいのぼしよ～」の単元では、入学して3カ月の1年生の子どもたちが、校内の自分のお気に入りの場所を学級の人々に紹介し、おたずねや感想をもらう。友

達のお気に入りの場所の発表を聞いて、今まで知らなかった学校の楽しい場所に気づくことができる。また、おたずねをもらうことで、新たな気づきや疑問が生まれる。さらに、「自分のお気に入りの場所を学級の友達に紹介する」という意識をもたせることで、自分のお気に入りの場所をもっとくわしく見ようとする。

10月に取り組んだ「大すきふぞく小学校～うろちよろたんけんたい どんなおしごとをしてきているのかな～」の単元では、単元の前半部で、本校の校務員さんの仕事や人柄について調べて分かったことを伝え合い、全体で交流する活動を取り入れる。友達の発表を聞いて、自分の知らなかったことを知ることができる。また、友達の気づきと自分の気づきを比べる中で、疑問に思うことも出てくる。その一方で、友達に自分の気づきを伝える中で、「これってどうだったかな」と、まだ何がよく分かっていないかにも気がつくことができる。

上記のことから、伝え合う活動を取り入れることで、自分や友達の学びを見つめ直すことができる。

2. 2. 表現活動を取り入れることで

低学年の子どもたちは、言葉で伝えることが十分とはいえない。また、具体的な活動や体験をし、対象とやりとりする中で、様々なことを感じ、考え、気づいていくという特性がある。そのため、子どもたちが伝え合う際には、絵や工作、動作、写真などを用いることができるようにする。絵や工作など具体的なものがあると、その子の思いや気づきを共有しやすくなり、気づきの質も高まりやすくなる。また、絵や工作などに表す過程においては、対象としっかり関わらなければ表すことができないので、「〇〇はどうなっていたのかな」と、対象をよく見ようとする意識が高まる。そうすることで、再び対象に関わり確かめに行く姿がみられ、さらなる気づきにつながると考える。

3. 単元の実践

3. 1.

「大すきふぞく小学校～しょうかいしよう おきに いりのばしょ～」の実践より

「大すきふぞく小学校～しょうかいしよう おきに
いりのばしょ～」の単元では、自分の校内のお気に入りの場所を友達に伝えるというめあてをもって臨んだ。
ワークシートに自分のお気に入りの場所を絵と文で
かいてから、絵や工作、粘土、写真などに表し、発表
する準備をした。(図1)

絵や粘土、工作に表すときには、「どんなになっていた
かな?」「もう一度見にいってきていい?」と、何度も
お気に入りの場所を訪れ、じっくり見る様子が見ら
れた。また、準備をしている子どもたちに話を聞いて
みると、「校長室先生の机の前のソファがあって
ね・・・」「これは、築山にあるタイヤが並んでいると
ころ」など、一人一人の思いやこだわりを話す姿が見
られた。(図2)

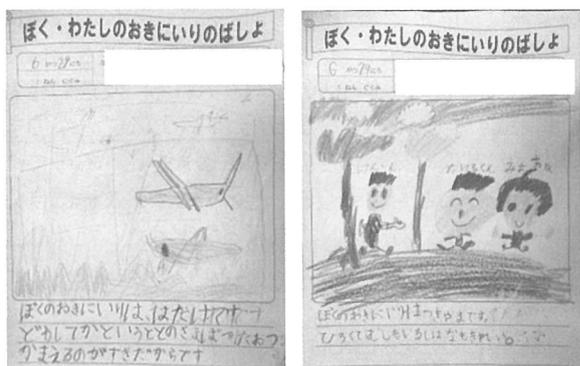


図1：おきにいりの場所をワークシートに

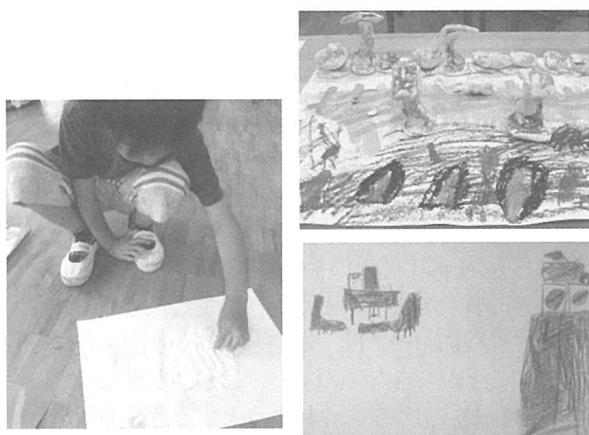


図2：絵や工作に表す

以下は、「お気に入りの場所を紹介しよう」の授業記
録である。

ゆうじが、自分のお気に入りの場所であるまが玉池

について発表し、聞いている子はおたずねをした。
授業記録

ゆうじ：僕のお気に入りの場所は、まがたま池です。
なぜかというと、おたまじゃくしがとれるか
らです。
教 師：なんでまが玉池が好きかわかった?
(C：おたまじゃくしいてるから。)
(C：バッタがいてるから。)
ゆうじ：バッタは違う畑やったらいてるやろ。
何か聞きたいことはありませんか?
さ え：これはなんですか?
ゆうじ：もう一個の川がながれていたやつです。
(C：まがたま池とつながってるやん。)
ゆうじ：これはもう一個の川みたいなのがあったから。
葉っぱみたいのがあったから描きました。
教 師：近くに川があったの分かった?
あきこ：この赤いのは何ですか?
ゆうじ：赤くないで、茶色やで。やごです。
あきこ：わかりました。
こうせ：これは何ですか?
ゆうじ：おたまじゃくしです。
(C：どれですか?)
教 師：ちょっとまってよ。
(C：もう一回指さしてください。ゆっくりと。)
ゆうじ：これ。おたまじゃくしです。
なのは：あきこちゃんに似ていて、やごってなんです
か?

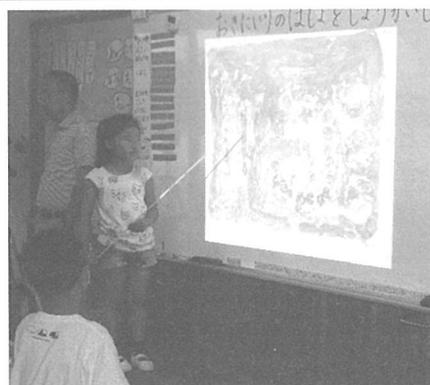


図3：粘土で表したものをさしておたずね

3. 2.

「大すきふぞく小学校～うろちょろたんけんたい どんなしごとをしてきているのかな～」 の実践より

10月に取り組んだ「大すきふぞく小学校～うろちょ
ろたんけんたい どんなしごとをしてきているのかな
～」の単元では、「学校で働く人となかよしになろう」
というめあてでスタートした。「なかよし」(その人の
ことをよく知り、その人にも知ってもらおう)になりた

い人の一人として、子どもたちからあがった本校の校務員さんに教室に来てもらい、聞きたいことを質問した。「まだよく分からないね」と、校内で仕事をしている校務員さんを探し、どこでどんなことをしているのかを調べた。校務員さんのことで分かったことは、その都度ワークシートに記録していった。言葉でも絵でもかいていいことを伝えていたので、文章で書く子もいれば、絵で描く子もいた。



図4：校務員さんの仕事や人柄を調べる

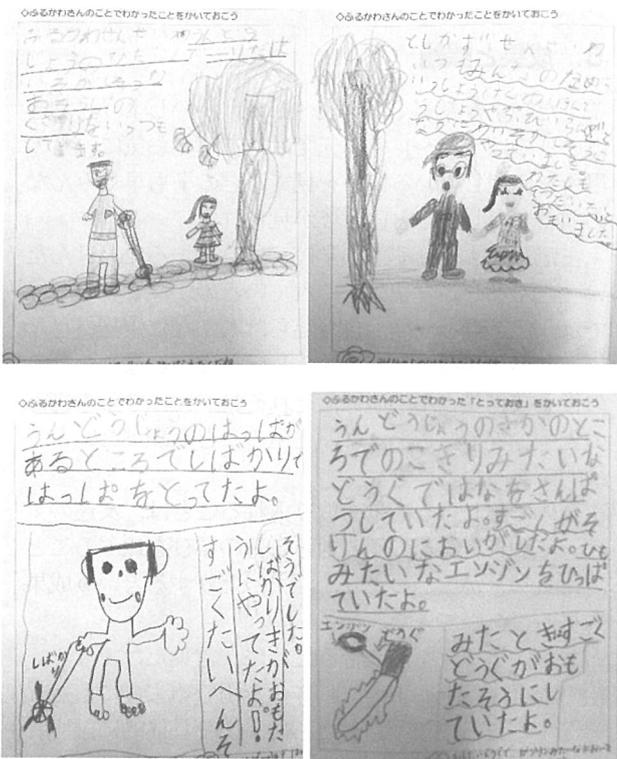


図5：かきためているワークシート

以下は、それぞれが見つげてきた校務員さんの人柄や仕事で分かったことを発表した場面である。

授業記録

みよ：掃除の時に、めがねとマスクを付けているのは、葉っぱとかが目に入らないようにしています。

教師：どんなめがね？絵に描いている？何の掃除の

とき？

みよ：プレイランドのはしっこで、道具でしているときに、めがねとマスクをしていた。

教師：どんなめがね？

みよ：<描いた絵を見せ、自分のめがねを使って見せながら> (図6)

普通のじゃなくて、どこもあいていない。掃除とかに使うもの。

教師：どこもあいてないから、葉っぱが入らないんだね。

(略)・・・校務員さんのきれいなものや好きなものに関するの発表が続く

ことえ：めがねとマスク、めがねは、こうへい君やみよちゃんが言っていたと思うけど、めがねは、普通のと大きさが違う。普通より大きくて、横が見えない。<手を使ってめがねの形を表す>

みよ：<掲示してある写真を指して>ここ見たらわかるよ。(図7)

教師：どこ？写真、見える？

<C：写真を見に行く>。



図6：絵や自分のめがねをつかって伝える



図7：掲示されている写真をさして伝える

あや：どうしていつも帽子をかぶっているかというと、ここがはげだから隠すためにかぶっているって言っていました。

C：えっ？(本当？というざわざわ感)

たけお：古川先生は、お家に帰るのが遅かったら、こわいって言った。お家に、ちょうちょうこわいお母さんがいて、おこられるから。

教師：それいつ聞いたん？

たけお：二人で話したとき。

教師：お家での話も聞かせてくれたん？

ともき：古川先生は草刈りをして、その次掃除して、その次名前は知らないけど何かして、ぼくは、いっぱいしているから大変だと思いました。

こうせ：古川先生は若い時、柔道をしていた。柔道で黒帯。

(C：黒帯って？)

教師：黒帯ってみんな知ってる？

(C：分からない。)

こうせ：1番強い帯。

教師：たくさん言ってくれているね。古川先生とこんなことした、古川先生がこんなこと言ってくれたってことまだある？

ことえ：あやちゃんが言っていた、古川先生が帽子をかぶるのは、頭をかくすんじゃなくて、掃除をしている時に、もしこけたら、帽子がなかったら血が出るからかぶっているって言っていました。

4. 単元の考察

4. 1. 伝え合う活動を通して

「だいすきふぞく小学校～しょうかいしよう おきにいのぼしよ～」の単元では、自分の校内のお気に入りの場所を友達に伝えるというめあてをもって臨んだことで、子どもたちは、友達に伝える日を楽しみに取り組むことができた。絵や工作に表すときには、「どんなになっていたかな?」「もう一度見に行ってきたかい?」と、何度もお気に入りの場所を訪れ、じっくり見る様子が見られた。対象によく関わる必要性を感じることができた。

「大すきふぞく小学校～うろちよろたんけんたい どんなしごとをしてくれているのかな～」の単元では、あやの古川先生が帽子をかぶっている理由の発言に対して、ことえは、「あやちゃんが言っていた、古川先生が帽子をかぶるのは、頭をかくすんじゃなくて、掃除をしている時に、もしこけたら、帽子がなかったら血が出るからかぶっている」と発言している。ことえは、自分が調べたことと比べての発言である。ことえの発言を聞いたことにより、他の子たちも、外のいろいろな場所を掃除してくれているから、こけてけがをすることもあるだろうと考えることができたのではないかな。

4. 2. 表現方法の工夫により

気づきを言葉だけでなく、絵や動作に表したり、子

どもたちが写真に撮っていたものを掲示しておいたりしたことは、説明が十分できない1年生の子どもたちにとって、気づきを共有するのに効果的であった。

「だいすきふぞく小学校～しょうかいしよう おきにいのぼしよ～」の単元で、ゆうきがおきにいの場所を発表したときには、「これは何ですか?」と粘土で作ったまが玉池を中心におたずねが出され、話が広がっていった。また、「まが玉池の近くには川があって・・・」と言う、ゆうじの「川」も子どもたちはイメージすることができた。

みよやことえが発表したいと思っている古川先生のめがねについては、絵や動作化、写真を使ったことで、どの子も共有することができた。また、ことえがめがねを手で表したことを受け、みよが教室に掲示してある写真にも写っていることを伝えた。ことえが動作をしたことで、みよをはじめ、ことえのめがねのことを共有することができた。みよの言う「葉っぱが入らないためにつけているめがね」が、ことえの言う「めがね」とつなげることもできた。

5. 成果と課題

「だいすきふぞく小学校～しょうかいしよう おきにいのぼしよ～」の単元では、友達のお気に入りの場所を発表している様子を見て、どの子も早くみんなの前で発表したいという姿が見られた。

また、「大すきふぞく小学校～うろちよろたんけんたい どんなしごとをしてくれているのかな～」の単元では、伝え合った後、自分たちはこんなに校務員さんのことが分かったという誇らしげな姿が見られた。その後も校務員さんの他に、それぞれが気になる事務室の先生、警備員さん、教頭先生のことも調べたいと意欲的であった。

全体で話し合う活動を取り入れることは、友達の気づきに触れ、友達の気づきと自分の学びを比べることで、気づきが広がったり、深まったりするという成果も見ることができた。

また、気づきを伝え合うために、言葉だけでなく、絵や写真、粘土や工作、動作化を用いるようにした。そうすることで、子どもたちは、より具体的に話すことができたりして、同じものを共有しながら話し合いをすることができたり、十分気づきの質を高める効果を生むことができた。

今回は、伝え合う中では、一人での学びでワークシート等に気づきが表現されているものの、それをタイピングよく出させることは難しいと感じた。今後の課題としたい。

参考文献

文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説生活編」